

暮らしていた自然環境を考える。その上で集団の関係性を考える予定。

野尻湖立ヶ鼻遺跡と花泉遺跡に見る旧石器時代の自然環境

・長野県野尻湖立ヶ鼻遺跡

1年間水位が一定であるわけではなく、冬場にちょっと低くなる。そこが波とかで浸食されて骨が出てくる。

1962年以来調査が続く。

約3万～2万年前の動物の骨が多量に出土。ナウマンゾウとオオツノジカが中心。前々回に、40万年前にナウマンゾウとかが日本に入ってきたと話したよね。

骨器や石器も出土。まあ一緒に存在していたのかはまだ解明されていない。もしかしたら動物とかが死んだ後に人間がやってきて住みついた跡が残ったのかもしれないし・・・とにかくまだわからんのよ。

野尻湖の左上の方にその遺跡がある。前の上越自身でちょっと被害を受けたような場所。

ナウマンゾウの足跡の写真。そこで水浴びとか泥を塗ったりしていたと考えられる。

オオツノジカの牙と角の写真・・・当初は人間が置いたと考えられていたが、今は骨と考えられている。

いろんな写真、はっきり言ってつまらん。要はこれからの研究に期待する。

・岩手県花泉(金森)遺跡

1950年代を中心に調査される。

低いところに泥炭層(地下水が多くて酸素が少ない、微生物の活動がゆるやかなので植物とかが酸化されにくい。だからいっぱい堆積している)

約2万年前に動物の骨が多量に出土。ハナイズミモリウシ・原牛等が中心。北から入ってきた動物群。

やはり、骨器や石器が中心。こっちも有機的な関係はわからず。

*これらの遺跡はキルサイト(動物の獲物を解体する場所)である可能性もある。

花泉遺跡の骨器・・・これについてはこれで動物を解体したとは到底考えにくい。

今日は写真ばかりだ。すぐくつまらない。

旧石器時代の生活

・ルイス・ビンフォードによる狩猟・採集民の分類

フォレジャーとコレクター

→旧石器時代の生活パターンはフォレジャー。

小規模なキャンプが生活の中心

貯蔵施設を持たない。

食料資源を求めて転々と移動する。

動産(持って歩くもの)を持たない

コレクターはまったく逆…これはまた縄文時代の生活を解説するときに言います。

・文化人類学における社会の分類

旧石器時代の社会はバンド(Band)社会。100人未満の集団からなる自立的な共同体。平等的な社会で、構成メンバーも流動的。